

7・16 さようなら原発 10万人集会 原発ゼロ！再稼働撤回！



代々木公園に結集した17万人の人々。胸には「再稼働反対」「NO NUKES」等書かれたゼッケンやフラカード。ニューヨークでも連帯した集会とデモが行われました。「原発NO！」の声が全国に広がり、大きなうねりとなり広がっています。集会に参加した各団体のみなさんの声を紹介します。



衆院東京15区 予定候補
吉田 年男

会場を埋め尽くす17万人の参加者。政治変革の大きなうねりを美感じます。

江東区には、福島県浪江・富岡町の住民をはじめ13000人余の被災者のみなさんがいます。原発事故の原因究明、避難者のみなさんの生活再建の見通しもままの再稼働は絶対に許せません。国と東京電力は直ちに被災者救援と生活再建に向けた施策を実施すべきです。

私 吉田としおは原発再稼働を許さず、太陽熱、風力、水力、地熱、バイオマス発電の再生可能エネルギーへの転換に力を尽くします。



東京15区一般労働組合 執行委員長 金谷 修
自主共済は少ない掛け金で大きな保障の助け合い制度です。助け合い共済制度を守るためのTPP参加に反対します。



江東生活と健康を守る会 会長 佐藤 巖
生計保護法改悪など弱いものいじめの悪政を許さず、国民が主人公の新しい政治の実現をめざします。



江東民主商会 会長 上原 謙
17万人、久しぶりの感動。パレードも疲れを忘れず、消費税増税の反対運動もこの熱気に負けずにがんばります。



新日本婦人の会江東支部長 中村 美智子
消費税増税が社会保障の財源にするためなど誤魔化しです。原発再稼働反対と合わせ、廃案にしなければ子供たちに手渡すことができません。

議会報告

今年も国民健康保険料の値上げがありました。通知が届いた翌日の6月19日から6日間に区役所への問い合わせは1355件、「保険料が上がった理由がわからない」「払いた方について相談したい」など深刻です。

昨年の計算方式の変更にによる大幅値上げに加えて、今年度は民主党政権が行った年少扶養控除廃止に連動した値上げ

もう払えない！国保料値上げやめて

区役所に苦情殺到！

加減にしろと言いたい」など怒りと悲鳴が上がっています。電話や訪問による「催促」のほか、「差し押さえ」などの強制徴収も行う構えです。

命を奪う保険証取り上げと徴収強化

高すぎる国保料を払いきれ

共産党区議団は「資格証明書発行世帯の47%は均等割り

安心して受けられる医療制度に

のみの低所得世帯。受診が遅れて重症化・死亡する事件もあり、保険証取り上げは命に関わる。「高すぎる保険料の引き下げこそ必要」と区に迫っています。

昨年、計算方式を変えて母子世帯や多人数世帯に大幅な値上げとなった国保料ですが、

値上げ幅を抑える経過措置が切れる来年度はさらなる大幅値上げとなります。この流れ

雑感

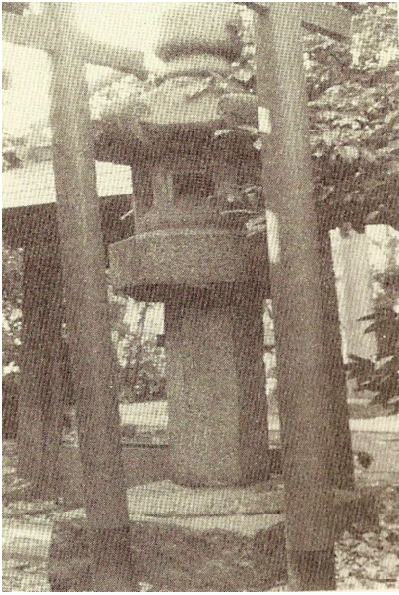
炎天下の代々木公園に集まった「さようなら原発」の声を上げる17万人の熱気がテレビからも伝わってきました。福島で被災した女性の発言が胸にひびきます。「かつて私は母親に、なぜ戦争を止められなかったの」と訊きました。いま原発を止めようとしなかったら、孫たちになぜといわれ「たしかに、第二次大戦中につくりだされた最凶の核兵器が原発を生みだし、日本に押し付けられました。世界で唯一の被爆国民が核廃絶をリードし、原発ゼロをめざして立ち上がったいくつもの必然です。しかし、民自公が80%を占める国会は、逆行する諸政策を強行しています。国会事故調は、原発事故を「人災」と断定しました。「想定外の津波」を冷却水の電源喪失の要因との東電の弁解に対して、現場の運転員らの証言から地震に起因する可能性を指摘しているのです。「国民の安全のため」「原発再稼働などとは、口が裂けても言えることではありません。昨年の災害復旧予算は5・9兆円も使えず残っています。消費税増税の前にも、電気代の値上げ、所得税・住民税の復興のための増税など、怒り心頭です。さらに、自助・共助を柱にして、憲法が保障する国民の権利を削る法案が審議されます。この苛政（カセイ）を止めるために、国政の根本を改革する道へ、今こそ心を一つに。

「米と油と干鰯の問屋街」

概説

江東の歴史

(12)



和倉稲荷の石灯籠

深川は隅田川と小名木川の水運の便にめぐまれ、各種の問屋が発達しました。

米問屋の佐賀町久住屋伝吉は全国を相手にする「下り米問屋」。「関東米穀二組問屋」には久住屋のほか、現在の永代1丁目、佐賀1、2丁目、深川1丁目に伊勢屋、山屋、小川屋、和泉屋、垂水屋、湯浅屋、植村屋などが集中していました。佐賀1丁目には1886(明治19)年、深川正米市場が設けられますが、このあたりは江戸時代から米穀の問屋街でした。

江戸時代には菜種や胡麻、鰯などをしぼった油があり、深川の油の取引は相当の量にのぼっていました。佐賀町には1704年ごろから油商人会所があり、油倉庫がおかれて、そこを流れる堀は油堀(首都高速9号線)と呼ばれました。1864(明治元)年、江戸19軒の水油(植物油)問屋のうち6軒が深川にありました。魚油製造の中心も深川に3カ所あり、鰯を干した干鰯(鰯)は、綿や藍の栽培にとって最良の肥料でした。鰯の漁場の銚子や九十九里浜から水路を経て深川に送られ、今の白河1丁目(元白河小は干鰯場跡)、佐賀、福住、深川の2丁目に荷揚場がつけられました。

深川2丁目には干鰯商人が信仰した和倉稲荷があり、後に富岡八幡の境内に移されましたが、その石灯籠や狛犬の台石には干鰯問屋の名が連ねられています。そのうち最有力者は久住善八で、石手水鉢に仕入先の鰯の網元の名が刻んであります。

干鰯問屋は関西の商人とも取引して豊かだったので、その子弟には学者や文化人が多く、その中で有名なのは国学者の村田春海です。彼は商売を番頭まかせで研究に没頭したので家を破産させてしまいました。(都の旧跡村田春海の墓は清澄3丁目の本誓寺)

年金者組合江東支部・江東社会保障推進協議会 共催

なぜ下がる？私たちの年金

7月10日、北砂中央集会所で、年金が毎年のように引き下げられている問題で、社会保険労務士・長谷川陽子さんを講師に学習会を開き、34人が参加しました。



講演をする長谷川陽子さん

その上、2011年0.4%、2012年には1.2%の年金が毎年減らされ、国民年金の満額の人でも2015年までに年額5万円も減らされることになり、

「社会保障と税の一体改革」では、社会保障は消費税を主な財源とし、共済年金を厚生年金に合わせるなど低い方に給付を引き下げ、保険料は高い方に引き上げるなど、よりいっそう国民いじめの政治を行おうとしていると述べると、「そうだ、ほんとよ!」と会場から怒りの声があがりました。最後に創設以来、年金者組合が掲げてきた「最低保障年金制度」の実現をめざすことが大切と強調し、大きな拍手で閉会しました。

第62次 都教組江東支部 教研集会

6月22日、都教組江東支部の主催で「教育研究集会」が開かれました。集会には、反核・反原発運動に携わるアーサー・ピナードさんが「ヒロシマからフクシマへの道」をテーマに講演しました。



講演をするアーサー・ピナード氏

第2部では、詩人でもあるアーサー・ピナードさんが流暢な日本語で講演。ピナードさんは、世界で最初に広島・長崎に投下された原爆が、米国内では「犠牲者を増やさず早期に戦争を終結させた」として扱われていることに疑問を抱きました。

第1部は、都教組江東支部谷口はるみ執行委員長から、教研集会の歩みが紹介され、若い先生たちが、子どもたちにどう向き合い、どのように伝えていくのか「実践講座」を年2回開催している様子が

紹介。原爆も原発も基本原理は変わらず同質のものであることなどをわかりやすく説明。力をしよと呼びかけました。公共事業に関わる建設労働者などの労働条件の低下を防止し、事業の質の確保につなげる「公契約条例」を制定する動きが広がる中、6月26日、大運動実行委員会が江東区文化センターで「公契約条例情勢報告学習会パート2」を開催しました。



報告する多摩市の総務契約課長

会の第一の報告は、今年4月から公契約条例を実施した多摩市の総務契約課長さんより「条例により、労働者の生活の安定、事業者の経営の安定、市民は良質なサービスの

公契約条例情勢報告学習会パート2 条例制定に「団結して頑張ろう」

の享受」が図れる」など、実施に至った目的と2年間の準備の過程について話しました。また条例制定を検討中の世田谷区の検討委員で大学教授の永山利和さんは、建設関連事業者の実態調査を時間をかけて行うなど準備過程での取り組みを重視していると報告しました。

新たに渋谷区が公契約条例の実施を決めるなど運動が自治体と議会を動かしています。最後は「団結頑張ろう」と取り組みへの決意を固める学習会になりました。

行事日程
7月31日(火)「原水禁世界大会江東代表団結式」
18時30分〜江東区防災センター
8月18日(土)「原水禁大会参加者の報告集会」
18時〜江東産業会館・第2会議室